

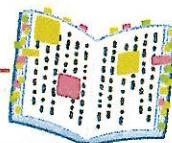
「読み解く力」の育成につながる日常的な取組

ポイント



主たる教材は「教科書」

教科書を用いて教科書で学ばせる
機会を増やしましょう！



地図帳に様々な資料や
データが載っています。
地図帳だけでも
学習がてきそうです！



新しく採択された教科書は、コラム、トピックなど
様々な資料が付いていて、とても情報量が豊富です。

さらに、中学校で採択される社会科の教科書には、「読み解こう」など、「読み解く力」に関連するコラムが記載されています！

教科書を用いて自学自習ができるといいですね！



ポイント



視写・音読・学習語彙・読書・共書き等の取組

それぞれの活動の意図、目的（ゴールイメージ）を
明確にもって指導しましょう！

語彙

言葉を知らないければ、文章の意味は分かりません！
人間は文章の中の単語の98%を理解していないと意味が分からぬと言われています。

- 取組例
- 教科書に記載のある語句について、確認する。
 - いつでも語句を調べられるように環境整備をする。
 - 語句の意味を調べるとともに、話や文章の中で使う場を設ける。（しりとり、新聞等の視写等）

言葉の活用力を付ける

共書き
(聴写)

文節を意識すること、重要な部分を
理解し記録する力が付きます！

音 読

音読は、響きやリズムを感じながら言葉の
意味を捉えることにつながります！

取組例

- 音読をする際、「すらすら読める」ことだけではなく、内容を理解しているかという目標も設定する。
- 子どもたちや保護者が「何のために音読するのか」が分かるように伝え、家庭学習や普段の授業の中で継続的に取り組ませる。

読 書

読書の質を高め、基礎的な読む力を
育みましょう！

取組例

- 分からぬ部分をゆっくり繰り返し読んでみると、考えながら読むことを指導する。
- 科学的な読み物などの説明的文章もすすめる。
- メタ認知できるように読書した内容を交流する場を設定する。

言い換え
答え合わせ

同じ意味をもつ言葉を言い換えることで、
同義文判定に関わる力が身に付きます！

取組例

- 「○○はどういう意味か」と問い合わせし、言葉を別の言い方で表現させる。
- 同じ意味の文として、2つの文を1つに、1つの文を2つの文に表現させる。
- 答え合わせの正しい仕方について指導する。

視 写

視写は、語彙習得、表現方法、
文章の構成力などが身に付きます！

取組例

- 学年ごとの視写する文字数を設定する等、ゴールを示す。
- 目標を達成できたら、繰り返し取り組ませないようにする。
- 誤りを修正せたり、音読させたりする。

内容の理解に役立つ

記 録

見たとおりに書く(描く)ことで、
イメージ同定に関わる力が身に付きます！

取組例

- 各教科等の中で、見たままを見たとおり書く(描く)。
- 見たことを図や表に表現させ、図や表を使って説明させる。
- 家庭や図工等で手順をテキスト等で示し、手順通り作業させる。

「読み解く力」の育成に向けた授業革新



では、どのような授業をすればいいのでしょうか？

6 具体例同定

新しく学んだ言葉を正しく使って文章を書かせる。

定義に即して具体例を説明させる。



個数は、2で割り切れる数をいいです。
だから、0は、2で割ってもあまりがないので個数です。



5 イメージ同定

図や表等の非言語情報を文で説明せたり表現させたりする。

文や文章に書いてある内容を図や表等で表すようにする。



1 係り受け解析

主語と述語、
修飾語と被修飾語を線でつなぐ。

学校の花壇に美しい花が咲いた。



2 照応解決

指示語が何を指しているのかを確認する。
主語や目的語が省略されている文章で、
意図的に主語や目的語を確認する。

「このような工夫を
すること」と
ありますが、この
ような工夫とは、
どのような工夫ですか？



印刷工場で働く石原さんの話を試みましょう。
工場の中は、仕事の順番に合わせて、作業する場所が決められています。工場の中はいつも整理整頓をしていたり、何かどこにあらかがるようになります。このような工夫をすることで、正確に速く作業できるようにしています。

3 同義文判定

自分の考えと他者の考えを交流させ、
同義か異議かを判断させる。

Bさんは長い文章で書いているね。これって、Aさんの考え方と同じじゃないかな。

AさんとBさんの考え方を比べてみましょう。
あ、本当だね。同じ考え方だ！

Aさんは、短い文章でまとめているね。

4 推論

既習事項を根拠として、新しい知識を獲得させる。
「～だから、～です。」と考えさせる場面を作る。



三角形の3つの角の和は180度。
四角形に対角線を引くと、
三角形が2つになる。
だから、四角形の4つの角の和は、
180×2で360度です。



授業革新における三つの原則



授業の際には、
三原則を忘れずに
取り入れていきましょう。



①教科の目標が最優先！

教科の目標を達成する中で、推論やイメージ同定など、1つ程度に視点を絞って取り入れた内容構成にしましょう。

②教科書を読む際には、教師の説明で理解させるのではなく、子どもたち自身に読み取らせ、言語化させましょう。

③「この言葉の意味を理解しているのか？」と疑問をもってください。
特に語彙や用語の確認をして理解させましょう。